

バグダッド 日 誌 (12月14日)

- 送別会の風景
 - ・ まもなく帰国するブルガリア、ウクライナ両LOの送別パーティが行われた。写真を取り合ったり、職場が異なるため普段は顔を合わせない国のLOと話したり、あちこちに輪ができて話しが弾んだ。こういう時、バグダッドに来て良かったと本当に感じる。それぞれの国の面白い話が聞けて、時間があっという間に過ぎていく。昨日のパーティで聞いた興味深い話を紹介したい。
- 多国軍司令部勤務者が紳士的な理由……
 - ・ G2スタッフのラトビアLO(陸大尉)も、年内に帰国する予定である。彼は、握手する時気をつけないと突き指しそうなくらいすごい勢いと力で手を握ってくる。「もうすぐ帰るんだって？おめでとう！」と声をかけた。彼は、「俺はここで勤務できてとても楽しかった。みんなとても紳士だった。」と答えてきた。以前紹介した多国軍司令部で怒鳴り声を聞かないことについて、彼も同じように感じていたようだ。
 - ・ 「そうだね。俺もここに来てから、怒鳴り声を聞いたことがない。気分よく仕事ができるよな。」
 - ・ 大尉:「日本はどうか知らないけど、俺の国の司令部では、怒鳴り合い、ドアを蹴飛ばし合いながら仕事してるよ。下手すると銃を持ち出すやつまでいる。そうしないと仕事が進まないからだ。」
 - ・ 「日本では銃を出すことはない。ドアを蹴ることも滅多にないけど、同じようなもんだ。何でだと思う？」
 - ・ 大尉:「簡単だよ、他の国の奴らから変な奴、一緒に仕事したくない奴と思われたくないからさ。」
 - ・ 彼の意見と言うより、話し方に説得力があるように感じた。旧ソ連圏の国や東欧の国は、国際社会、特に米英から認められたい、という理由で、イラクに軍を派遣している。(もちろんそれだけではないだろうが)国を代表して派遣され、多国軍参加各国軍人等と良好な人間関係を持つことは、我々以上に重要な意味を持つのだろうと思う。最後に彼は「でも帰国したら、怒声に囲まれて仕事するだろう。そういう意味でここでの勤務は楽しかったよ。またどこかで、会えたら、そのときはよろしく!」と言った。「全く同感、こちらこそよろしく」と注意しながら握手した。(国井)
- 米軍人の助けはいらない!
 - ・ 我々とほぼ同時期に帰国予定の某国LO(旧ソ連国陸軍)私が最も仲良くしているLOの一人が、「ブランクCD持ってたら分けてくれないか?」と言ってきた。私「いいよ、でも、今ここにはない。日本のコンテナに行けばあるけど、今すぐに必要なのか?」、某「ウン、すぐに欲しいんだ。」、私:「だったら、スタッフの米軍の誰かに言えばくれるよ。」
 - ・ 某:「あいつらには借りを作りたいくない。」、私:「じゃあ俺が必要と言うことにして、俺が借りてきてやるよ。」、某「いや、いい、今から買いに行ってくる。この話は忘れてくれ。」、私:「わかった……」、結局彼は、パーティを途中で抜け出して、CDを買いに行った。
 - ・ 普段は私と一緒に米軍とも親しく話しているが、この時の彼の態度には「たったCD1枚でも米軍には借りを作りたいくない。」という頑なさがあった。無理して自分を救い、紳士的に振る舞う彼の苦勞を見る思いがした。

バスラLO日々業務報告(12月14日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 (警戒態勢):
2 特記事項	(1) (2)
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : (3) 定例会議への出席 : 司令部朝会議・夕会議、J2・J3・J8 認識統一会議 (4) 空路輸送調整
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議への出席 (3) 空路輸送調整
5 その他(備考)	